

---

# 真・恋姫†無双～南北コンピの三国志～

クーロン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真・恋姫†無双〜南北コンビの三国志〜

### 【Nコード】

N7075Y

### 【作者名】

クーロン

### 【あらすじ】

北郷一刀と幼なじみの南郷仙刀のコンビが三国志で大暴れ！！  
「いや、ぜんぶ仙刀の悪ふざけだから！！」 「人になすりつけんな。サイテーだな」 「お前よりマシじゃアアア！！」  
…まあ、こんな具合でお送りする三国志開幕です。

## 碌でなしの幼なじみ

幼なじみ

この一文字に何を考えるだろうか？

同い年のかわいい娘？ちよっと年上のお姉さん？それとも妹系？  
だけどさ…現実ってきびしいよね…俺の幼なじみはさ…

「オラ、一刀さっさと打ち込めや。やらねーとシバくぞ」

…こんな奴だよ…

俺は北郷一刀。聖フランチェスカ学園の学生。正直、今メツチャ困  
ってる。その原因が…

「ま、おれからいくけど。何やるっかなー 正拳、前蹴り、貫手、  
上段、下段…どれがいい？」

このバカ>幼なじみくだ

因みに言っておくが今の状態は剣道場で向かい合っている状態。俺  
は竹刀、防具とフル装備で相手は…  
下は袴、上は空手着、そして素手。お前の方が有利だと思っ奴…  
甘いよ…

実はこいつ目茶苦茶空手が強い。

ついでに合気道も。

あとタイキックもヤバいなガ 使見て習得したらしいけど…

色々あるけど何を言いたいかというところ…

俺、絶体絶命

「仙刀、勘弁してくれよ。まだ死にたくない。ガチで。」

「大丈夫、死にやしねえよ。六分の七殺しにするだけだ。多分…」

「オーバークイルじゃねえか！しかも何だ多分って！！」

「運が良ければそうなるから大丈夫！」

「アウトじゃボケエエエエ！！」

で、この馬鹿が『南郷仙刀』なんごうせんたく『碌でなし。小学校に入る前からの付き合いだけど…どうしてこうなった

素手同士なら普通に勝てるからつまらん。とか、ぬかしやがってこれ。異種格闘戦。

こっちの方が楽しいとか言ってんじゃねえよ。頼むから地下闘技場行け。そして逝け。切実に。

## 外史入り（前書き）

やっと出来ました。

小説書くって大変ですね。

## 外史入り

### SIDE 一刀

「ヴアアア、疲れた。体痛い。帰りたい。」

「弱すぎんだろ。何で素手相手に負けんだよ。」

「黙れ外道。いきなり金的とか何考えてやがる。」

仙刀は昔から空手バカだからやったら空手が強い。

あと、合気道も

タイキックもヤバいな

ガ 使見て学んだらしい。

及川を一撃で仕留めてたな、アレ…

ジジイに鍛えられた。護身用と言ってるけど…

武器持ちに素手で圧勝とかおかしいから。

動きが護身じゃなく殺る動きだから。

格闘のジャンルの多さもおかしいから。

他にも色々、手を出してたような…

そして部活中の剣道VS空手。これがウチの部の名物だったりする。

隣の空手部員全員倒したらこっちに来る。そして俺と試合（ルール、情け共に無用）

不動先輩も顧問もこれを黙認している。

そして、準備運動と称して倒され、隣で寝てる空手部の皆様。ご愁傷さまで…

こんな奴が生まれたせいで…

「で一刀。お前、寝てて良いの？世界史のレポあるとか言ってるなか

「つた？」

「ヤベエ！！資料館閉まる！！！」

「あーあ、いつまでも寝てるから……」

「誰のせいだよ！！！！！！」

「え？不動サン」

「お前だよ！！何、先輩になすりつけてんだ！！！！！！」

「ノリ」

「舐めとんのかアアア！！！！！！」

「うるせーな。絶叫してないでさっさと行け。閉まんぞ。」

「仙刀。お前も来い。閉じてたら、しばくから。」

「ハ？やだよ。一人寂しく行けよ。」

「いいから来いよ。」

「へーへー、わかりましたよ。」

こんなやり取りは何時もの事。

俺達は着替えて、資料館に向かった。

SIDE 仙刀

なんとか、資料館は開いていた。面倒い。

そして一刀のレポに付き合う羽目になった。ダルイ。

この資料館は学園長が趣味で集めた物がほとんどらしい。その金俺にくれ。

そんなこんなで色々骨董があるらしい。正直どうでもいい。

「お、三国時代の壺だつてよ。」

「メンマ入れだろ」

「あ！夏侯惇の剣だつてよ。かつけー！！」

「錆びた鉄の棒だな」

「スゲエ！！金印だ！！」

「メツキだな」

「お前さ…もう少しは歴史に興味持てよ。」

「嫌だよ、地理で限界。それに俺理系だし。」

そう、何を隠そう俺は理系だ。歴史、古典とか無理。赤点常習。向上心0。

もう開き直っている。

…まあ、一刀にバカにされるとキレルけど。理科、数学はできるからいいの。

…バカにされたの思い出したらムカついてきた。

後ろから、延髄斬りかタイキック何をやんのか考えていると一刀が



急に止まった。∴ CHANCE!!!

「おい、仙刀。アレ見ろ」

「あ？」

正拳をしようとしたら話かけてきた。  
チツ

「どうした」

「アレ」

一刀の指差す先には白服の男。  
ぱつと見、同年代。  
ただドウチの生徒じゃないな。

「部外者∴泥棒か？」

「多分。アツ逃げた！何か持つてる。∴仙刀追って。」

「何でさ。いいじゃん別に。古くさいもの一つ百個盗られようが。」

「よくねーよ。てか、多いから。お前の方が足速いんだから早く行け。」

「人使いの荒いことで∴。ま、追うけど」

一刀は後で殴る事にし、あの白服を追う。  
当然、足音をたてずにだ。気付いてない∴。油断してやがるな∴∴。

狙うか。

SIDE 一刀

…アレ？あいつ、いい顔してんだけど…  
あの顔すると碌なことしないんだよな。  
あ、跳んだ。て、事は…

「逃げてエ！その白服！！超逃げてエ！！！」

叫んだのが悪かったのか、白服が振り返った瞬間にバカのドロップキックが顔面に突き刺さる。

そのまま白服は倒れて後頭部強打。

うん、綺麗なドロップキックだ。

タイガー スクモホレボレするだろう。

そして、綺麗な着地。

直後

『パリーーン！！！！！！！！！！』

快音。

まあ、こうなるよね

「よっしゃ！！成功！！！！！！一撃で仕留めたぜ！」

「大失敗だよバカ。どうすんだよ…えっと鏡だなこれ…」

カバンを置いて近づく。うわ、粉々じゃんコレ。どうすんだ。

「ハア？鏡？これが？ボケたか？良い病院紹介しようか？」

「うつさい黙れ。昔はこうなの。つーか、どうすんのこの鏡。あんなとこ置かれてたし、多分かなり高いぞ。」

「マジで？」

「うん。学園の物だし、たぶんかなり弁償することになるな。絶対修復無理だなこれ……」

ピロリン

あれ、今こいつ何した？

「よし、逃げるぞ」

「待てやゴラ。何しに行く気だ。」

「この写メ見せて一刀が鏡割ったことにするだけだ」

「何てことしようとしてんだ……！」

「だってお前の言い方だとメツチャ金取られそうじゃん……！ケツの穴ちぎれるまで……！」

「無えよ……！二つの意味で無えよ……！！！」

コイツ……正真正銘のクズ……っ……！！

「止める！！放せ！！掴むな！！」

「放したら逃げるだろうが！！」

「うん！！」

「絶対に放さないからな！！放したら俺に全部なすりつけるだろ！！」

「当たり前だアアア！！」

「小学校から道徳やり直せエエエ！！」

…武道つて、人間教育も兼ねてるんじゃないやなかつたっけ？

武道やってガチのクズがいるんだけど、なんとかして下さい。そんなことしてたら急に仙刀が抵抗を止めた。

「おい、一刀…後ろ…」

仙刀に言われて振り向く。そこには

粉々に砕けた鏡から光が溢れだす幻想的な光景  
思わず力がゆるんだ。

「今のうちっ！！」

「逃がすかあ！！」

その瞬間逃げ出しやがったクズのズボンの裾を掴んで捕まえる。  
ベブオとか奇声を発したが気にしない。

「お前掴むな！！鼻打った！！」

「ふざけんな！！てか、何で俺のカバンも持って逃げようとしてんだ！！」

「お前の財布と貴重品をパクるために決まってるんだろっが！！」

「最低だよ！お前！！」

必死で格闘してると何やら引つ張られる感覚。まさか…

「お前何やってる！！引つ張んな！！」

「違う！！鏡が吸い込んでる！！」

「どっという理屈だよ！！」

「分からない！その白服何か知ってる！？」

仙刀が蹴り飛ばした奴に話を振る。

…頼む…答えてくれっ！

だが祈り虚しく、そこには完全に伸びていた白服。

「へんじがない。ただのしかばねのようだ…」。

「なんでそんな余裕なの！？ってウワツ！！」

急に吸引力があがった。ヤバい外れるっ！

「よし、剥がれた！！これで勝て「逃がさんつっ！」ギャアアア！  
！また取り憑かれた！！お前何なの！？新種のボ ビー！？」

「許さない…逃げるなんて…絶対に…！！」

ここで逃がしたらマズイ！！！！

「ヤンデレ風に言うな！！キモいから！！くそっ！！手を蹴れば…  
分かった蹴らない！！止める！！だから登って来んな！！腰から手  
を放せ！！」

「ヤダ」

「正気かお前！！」

傍からみたらヤバい画だけどそんな事気にしてる場合じゃない！！

「オマエハミチツレダ…」

「怖エエエ！！怖いから止める！！」

「オマエダケニゲルナンテユルサナイ…ッ！！」

「ぐああああ！！貴様ああ！！」

SIDE 三人称

末代から呪ってやるからなあああ！！

という叫びが止み静かになった資料館。

そのの伸びた白服以外にもう一人いた。メガネの男が

「やれやれ、災難でしたね、左慈。大丈夫ですか。」

眼鏡の男は伸びている白服に話し掛ける。

「ん、くああ」

「お目覚めですね。さあ、帰りましょう。」

「……………」

「左慈？」

左慈と呼ばれている白服は目を覚ましそして…

「あれー、ここどこー？」

強い衝撃で記憶喪失プラス幼児退行していた。

そして眼鏡の男を小首を傾げてクリッククリの目で見る。

「クハツツツ!」

そして資料館の一部が紅にそまったが、それは些細なことだろう。

## 外史入り（後書き）

次回から本編になります。

これからもこの駄文をよろしく願います。



## キャラ紹介 主人公（前書き）

本編の前に。

読み飛ばしてかまいません

## キャラ紹介 主人公

オリ主：南郷 仙刀 >なんごう せんとく

性別：男

立場：武将

特記事項：格闘好き 特に空手、合気道。他の武道の技も使います。

名前：北郷 一刀

従来の主人公。むしろ、同姓同名のオリキャラの扱いが正しいかも。

立場：文官

特記事項：この作品では蜀 で甘やかされるのではなく、成長する一刀を書きたいと思います。突っ込み、ぼけの両刀使い

名前：????

真名：????

性別：????

特記事項：とある有名諸侯の関係者。

外史で出会うオリキャラ。仙刀、一刀が成長するためのキーマンを

予定。

## キャラ紹介 主人公（後書き）

次回から本編に本当に入ります。  
よろしく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7075y/>

---

真・恋姫†無双～南北コンビの三国志～

2011年11月22日02時00分発行